

バッハ・コレギウム・ジャパン

BACH COLLEGIUM JAPAN

BACH
COLLEGIUM
JAPAN

鈴木優人

●指揮 オルガン独奏*

クリスティー・ウィットマー・ソプラノ 久保法之・アルト
吉田志門・テノール 加来徹・バス
バッハ・コレギウム・ジャパン ●会場と管弦楽

J・S・バッハ

《ああいかに傍き、いかに虚しきものよ》BWV 644

《装いせよ、おお愛する魂よ》BWV 654

カンタータ第26番《ああいかに傍き、いかに虚しきものよ》BWV 26

カンタータ第121番《キリストを誉め讃えよう、喜ばしく》BWV 121

カンタータ第139番《幸いなるかな、神に身を委ねる者》BWV 139

カンタータ第180番《装いせよ、おお愛する魂よ》BWV 180

開演前アンコールあり

教会カンタータ・シリーズ vol.92

コラールカンタータ300年VIII

第272回神戸松蔭チャペルコンサート

2025.10.18 [Sat] 開演:18:00 プレトーク:17:45

神戸松蔭大学チャペル

Kobe Shoin University Chapel

チケット | 1階指定 ¥9,800 2階バルコニー立見席1列目 ¥5,000**

2階バルコニー立見席2列目 ¥3,000**

第168回定期演奏会

2025.10.19 [Sun] 開演:15:00 プレトーク:14:45

東京オペラシティ コンサートホール:タケモツ メモリアル

Tokyo Opera City Concert Hall: Takemitsu Memorial

チケット | S ¥9,800 A ¥7,600 B ¥5,500 C ¥4,000 J ¥2,500 U25 ¥1,500*

バッハ・コレギウム・ジャパン チケットセンター

03-5301-0950 (平日 10:00-18:00)

チケットぴあ | <http://t.pia.jp/> [Pコード東京303-575 神戸303-573]

イープラス | <http://eplus.jp/>

ローソンチケット | <http://l-tike.com/> [Lコード東京33002 神戸54834]

ヴォートル・チケットセンター | <http://ticket.votre.co.jp>

teket | <https://teket.jp/4425/4633/> お座QRコード参照 >>>



*BOJチケットセンター・teketのみ取扱い

(U25券は2000年以降に生まれた方が対象です。(ご本人様1枚のみ。座席番号表記不可)
U25券をご購入の方は、公演当日年齢確認ができる証明書をお持ちください。

主催: 有限会社バッハ・コレギウム・ジャパン <https://bachcollegiumjapan.org/>

共催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団 (東京)

協賛: 神戸松蔭大学 (神戸)、ドイツ連邦共和国大使館 (東京)、ドイツ連邦共和国総領事館 (神戸)

後援: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動)) / 独立行政法人 日本芸術文化振興会

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション ROKU Music

The 300th Anniversary Project of Choral Cantatas VIII / Church Cantata Series vol. 92 J.S. Bach: Ach wie nichtig, ach wie leichtig, BWV 644 / Schmecke dich, o liebe Seele, BWV 654 / Cantata No. 26 "Ach wie flüchtig, ach wie nichtig," BWV 26
Cantata No. 121 "Christen wir sollen loben schon," BWV 121 / Cantata No. 139 Wohl dem, der sich anfreuen Gott, BWV 139 / Cantata No. 180 "Schmecke dich, o liebe Seele," BWV 180
Mezzo Suzuki, conductor; cello solo / Kristin Witmer, soprano / Noriyuki Kubo, alto / Shimon Yoshida, tenor / Toru Kaku, bass / Bach Collegium Japan, chorus & orchestra

CHORAL CANTATAS

コラルカンタータプロジェクトとは？

バッハは、1724年から翌年までの間に、コラルカンタータと呼ばれる特別な構造を持つカンタータ40曲を作曲した。これは1524年——すなわち宗教改革者マルティン・ルターが多くの音楽家と共同して、会衆が歌えるようにいくつかの賛美歌集を出版した「賛美歌制定の年」から200年を祝ったものと思われる。バッハ・コレギウム・ジャパンの取り組む「コラルカンタータ300年プロジェクト」は、2024年から2025年にかけて、ルターの賛美歌制定から500年、バッハのコラルカンタータ作曲から300年を祝うために、これら40曲を演奏していく大きな取り組みである。

コラルカンタータのシリーズも、残すところあと3回となりました。今回は、1724年10月からクリスマスにかけて初演された4曲をお届けします。BWV 180《装いせよ、おお愛する魂よ》は、バッハが有名なオルガン曲にも用いたコラルに基づき、一貫して「私は光である」と言われたイエス・キリストに対する「憧れ」がテーマ。冒頭リコーダーとオーボエを伴ってコラルの優美な旋律が、3連符に漂う明るいコンチェルトに変貌。続くテノール・アリアでは、飛び跳ねるトラヴェルソの華やかなオブリガートが、イエスの言葉に元気づけられる心を表す。第3曲レチタティーヴォでは飢え乾く心の内面を映すように、珍しいヴィオロンチェロ・ピッコロ（ここではスバラを使用）が装飾されたコラルをしっとりと飾る。命の糧であり光であるイエス・キリストを誉め称えて、全章楽長調に光り輝く最も明るいカンタータ。BWV 139《幸いなるかな、神に身を委ねる者》では、神への「信頼」がキーワード。穏やかなコラルに基づく冒頭合唱に続き、ヴァイオリンとオーボエ・ダモレを駆使した劇的なアリアが、この世の友の「嫉妬」「憎しみ」を語り、突如、第4曲バス・アリアの最後に、慰めの光が差し込み「神のみが最善の友」と心から安堵して曲が終わる。BWV 26《あひかに傳き、いかに虚しきものよ》では、時の素早さ、人生の霧のごとき儚さを歌う最も悲観的なカンタータ。であるにも関わらず、駆け巡る器楽がコラルと共に最速のヴィヴァルディ風コンチェルトとなって、突然の合唱のユニゾン、駆け巡るテノールやアルト、3本のオーボエなどに目を見張る間に、人生は終わっている。BWV 121《キリストを誉め称えよう、喜ばしく》は、マルティン・ルターの最も古いコラルに基づき、冒頭合唱ではトロンボーンアンサンブルと共に、器楽が独自のパートを持たない「古様式」で書かれた重厚な作品。クリスマス第2日は、第1日の華やかな面を削ぎ、イエス・キリスト誕生の神秘と真理を語って、ドクソロジー（礼拝最後の頌栄）をもって荘厳に終わる。J.S.バッハの目くるめく多様性をこの4つのカンタータで、とくにご覧ください。

鈴木雅明

PROFILE

鈴木優人 | 指揮・オルガン独奏 Masato Suzuki, conductor, organ solo

指揮者、作曲家、ピアニスト、チェンバリスト、オルガニスト。東京藝術大学およびオランダ・ハーグ王立音楽院を修了。アムステルダム音楽院にも学ぶ。第71回芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回渡邊雄雄音楽基金音楽賞、第19回佐川吉男音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティブ・パートナー、関西フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。指揮者として、NHK交響楽団、ハンブルク交響楽団、オランダ・バッハ協会など、国内外の多数のオーケストラに客演。2025年1月8日とのヨーロッパ公演で指揮を務め、パリを始め各地で高い評価を集めた。オペラにも積極的に取り組んでおり、特にモーツァルトの舞台作品に継続的に取り組むほか、22年には新国立劇場に指揮者として初登場。24年《魔笛》公演に続き、25年Bunkamura《ドン・ジョヴァンニ》公演で指揮を務め、大きな話題を呼んだ。NHK-FM「古楽の楽しみ」レギュラー案内役、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」、NHK「クラシックTV」「らららクラシック」などメディアへの出演も多い。CD録音もBCIとのJ.S.バッハのチェンバロ協奏曲集（BIS）など多数。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。



©Masato Suzuki

X / @eugenesusuzuki Facebook & Instagram / masatosuzukimusic

バッハ・コレギウム・ジャパン | 合唱・管弦楽

Bach Collegium Japan, chorus & orchestra

1990年鈴木雅明により創設。音楽監督に鈴木雅明、首席指揮者に鈴木優人を擁する。世界各国から集まる古楽のスペシャリストとともに、オリジナル楽器を用いてバッハを中心とした音楽遺産の理想的上演を目指し演奏活動を行う。多数のCD録音が高い評価を受けるほか、BBCプロムスやカーネギーホールなど世界中で活発な演奏活動を展開。2022年秋の9都市を巡る欧州公演、23年6月のライブツィヒ・バッハ音楽祭フィナーレへの招聘、24年8月BBCプロムスへの招待等、日本のみならず世界の音楽シーンを牽引している。18年の年月をかけて完成した「バッハ：教会カンタータ全曲シリーズ」は、世界的にも貴重な成果として注目を浴びた。2020年上演のヘンデル《リナルド》公演が第19回佐川吉男音楽賞を受賞。25年1月、鈴木優人指揮による欧州公演も各地で満場の聴衆に迎えられ、高い評価を得た。



クリステン・ウィットマー | ソプラノ Kristen Wittmer, soprano

日本生まれ。14歳の時にヘンデル《メサイア》でソロを務めたのを振出しに声楽を専門的に学び、東京藝術大学を卒業後、デン・ハーグ王立音楽院にてベーター・コーイ、ジル・フェルドマン、マイケル・チャンスの各師に師事。在学時よりバッハ・コレギウム・ジャパン（BCJ）、コレギウム・ヴォカレ・ゲントなど、古楽界を代表するアンサンブルと多数の共演を重ねる。現在はソリストとしてバロック、古典派とルネサンスのレパートリーを中心にヨーロッパ主要のコンサートホールや音楽祭に出演。これまでに鈴木雅明、フィリップ・ヘレヴェッヘ、ヨス・ファン・フェルトホフエン等の指揮者、18世紀オーケストラ、ヴォックス・ルミニスなど国際的なアンサンブルと共演。2023年には鈴木優人/オランダ・バッハ協会との《マタイ受難曲》ツアーでソリストを務め好評を博した。



©Dada Vlasopoulou

久保法之 | アルト Noriyuki Kubo, alto

鹿児島県出身。BCJでは《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》《復活祭オラトリオ》《昇天祭オラトリオ》をはじめ、数々の公演でソリストを務めた。モントリオール国際声楽祭、名古屋国際音楽祭、北とびあ国際音楽祭、2025年にはL.ヴィラマホ 指揮のバッハ・プロジェクトに選抜され、バルセロナ国際音楽祭、ヒボン音楽祭に出演。モンテヴェルディ《ウリッセの帰還》、バーセル《ディッドとエネアス》、ヘンデル《リナルド》、ヘンツェ《午後の風船（東京二期会・日生劇場）》、向井統（The Mirror of Natori（初演））など、S.フジェ、H.ウゼル、鈴木優人、A.ベレス諸氏のもと国内外でオペラにも出演し、演奏は古楽から現代音楽まで多岐に渡る。東京藝術大学卒業、同大学院修了。武蔵野賞、松田トシ賞、アカンサス音楽賞、同声会賞受賞。令和6年度文化庁新進芸術家海外研修員。2025年度RIN奨励学生。



©DAISUKI ITO

吉田志門 | テノール Shimon Yoshida, tenor

名古屋に生まれる。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業を経てミュンヘン音楽大学修士課程修了。2016年からはヨーロッパの主要都市でソリストとして多くの演奏会に出演している。J.S.バッハ作曲《クリスマスオラトリオ》《マタイ受難曲》《ヨハネ受難曲》、G.F.ヘンデル作曲《プロクセス受難曲》、モーツァルト作曲《レクイエム》、メンデルスゾーン作曲《エリア》、J.ハイドン作曲《天地創造》、ベートーヴェン作曲《第九》など多数。18年秋にイタリア・ミラノで行われた国際コンクール「第9回コンコルソ・サルヴァトーレ・リチートラ」にて特別賞を受賞。20年春よりRIAS室内合唱団（ベルリン）にて史上初の日本人団員となる。井原義則、佐々木真子、永久田峰雄、Silvia Greenberg、Joachim Vogtの各氏に師事。ウェブサイト <https://shimonyoshida.amebaownd.com>



©RIAS Kammerchor Berlin / Oliver Lohk

加来 徹 | バス Toru Kaku, bass

東京藝術大学大学院首席修了。大学院アカンサス賞受賞。バロックから現代音楽まで多くのジャンルをレパートリーに持つ。バッハ・コレギウム・ジャパンとは《マタイ受難曲》のCDに参加する他、2021年1月の《エリアス》ではタイトルロールを務め絶賛された。オペラでの活躍もめざましく、《ドン・ジョヴァンニ》、《コジファン・トゥッテ》、《ランメルモールのルチア》、《こうもり》等、数多くの作品に出演。25年2月ORCHARD PRODUCE2025《ドン・ジョヴァンニ》でもバッハ・コレギウム・ジャパンとの共演で、マゼット役を演じ、好評を博した。テレビ朝日「題名のない音楽会」等メディアにも多数出演。25年5月にオクタヴィア・レコードより「TORU KAKU meets SCHUMANN」を発売。現在、洗足学園音楽大学で非常勤講師を務める。



©Hirotaki Watanabe